

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	岩間支援教室		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別指導のカリキュラムを通して、より個別支援計画に沿った支援を行うことができる。都度保護者様に申し送りをするこ とで、次の支援に活かすことができている。運動や学習など多 岐にわたり、支援を行うことができているので、需要にあった カリキュラムになっている。	スタッフ間で定期的にミーティングを行い、子どもたちの状況 や支援の方針について共有している。これにより、一貫した対 応が可能となり、子ども一人ひとりに合った支援を行いやす くなっている。また問題が発生した際も迅速に対応できる体制 を整えている。	子ども一人ひとりの特性や成長のスピードに合わせた支援計 画を定期的に見直し、より効果的な支援を提供できるよう努 める。職員間の情報共有を強化し、子どもの小さな変化にも 気づきやすい環境を整えることで、より適切な対応ができる ようにする。
2	固定されたプログラムではなく、郊外学習や外出などを取り入 れることで、子供たちが新しい環境や経緯に触れる機会を多く 提供している。これにより、学びの幅が広がるだけでなく、毎 回新鮮な気持ちで通所できるため、飽きることなく継続的に通 うことができている。また、季節や子どもたちの興味・関心に 合わせた活動を取り入れている。	事業所の広いスペースを活かし、子どもたちが定期的に体を動 かせる環境を整えている。運動を取り入れることで、ストレス 発散や体力向上につながり、活動への集中力も高まることが期 待される。屋内外での運動プログラムをバランスよく取り入れ ることで、楽しみながら体を動かす機会を増やしている。	定期的な面談やアンケートを実施し、保護者の意見を積極的 に取り入れることで、支援の質を向上させる。また、日々の 連絡だけでなく、保護者向けの交流の場を設けることで、事 業所と家庭の連携をより深めることを目指す。
3	送迎の際に子どもたちの様子を詳しく伝えることで、保護者が 日々の成長や変化を把握しやすくなっている。子どもがどのよ うな活動に取り組み、どのような表情で過ごしていたかを伝え ることで、安心につながる。また家庭での過ごし方や困りごと についても情報を共有し、支援につなげることで、事業所と家 庭の連携がとれる。	できるだけ保護者の負担を軽減できるように、送迎時間やルー ト柔軟に調整している。家庭の状況に寄り添いながらスケ ジュールを組むことで、より安心して利用できる環境づくりを 目指している。また、送迎時には子どもの様子を細かく伝える ことで、保護者が日々の成長を実感しやすいよう工夫してい る。	地域の施設や専門機関と協力し、子どもたちの社会参加の機 会を増やす。地域イベントへの参加や、外部の専門家による 講習会などを企画し、子どもたちの成長を多方面からサポー トできる体制を強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や兄弟を含めた支援の機会が少なく、家族全体でのサ ポート体制が十分に整っていない部分がある。特に兄弟間の関 係性を深める機会が少ないため、家庭内での理解を促進する取 り組みが必要感じる場面がある。	家族全体で支援を受けられる機会が少なく、特に兄弟同士での 関わりを深める場が不足している。そのため、家庭内での理解 を促進し、家族全体で成長を支え合える環境を作るための取り 組みが求められる。	家族全体で支援を受けられる機会を増やし、特に兄弟同士の 交流を促進するためのイベントやプログラムを企画する。家 族間での理解と絆を深めるため、家族参加型の活動や交流会 を定期的実施する。
2	利用者同士のかかわりが限定的になりがちで、対人関係の経験 を積む機会が不足している。特に、個別対応が多くなるため、 集団での活動が十分に行えない場面があり、社会性を育む機会 を増やす工夫が求められる。	他の学校や事業所と合同で活動する機会が少なく、対人関係を 広げるチャンスが十分に提供できていない。さまざまな環境に 触れ、社会性を育む機会を増やすことが課題となっている。	他の学校や事業所と連携し、合同での活動や交流イベントを 増やすことで、利用者同士の社会性を育む機会を提供する。 これにより、他の環境や異なるプログラムに触れることがで き、社会経験を広げることができる。
3	利用者や職員のバランスにより、曜日によっては施設が手狭に 感じることがある。活動スペースの確保が難しくなるため、十 分な運動量が確保できなかつたり、活動の幅が狭くなつたりす ることが課題となっている。	曜日によって施設が手狭に感じることがあり、活動の幅が制限 される場面がある。特に利用者数が多い日は、一人ひとりが十 分に動ける環境を整える工夫が必要とされている。	施設のスペースを効果的に活用するために、部屋を分けて活 動を行うことで、より多様なアクティビティを同時に実施で きるようにする。また、外出や室内遊びを交互に行うこと で、利用者がストレスなく活動できる環境を整える。